

下水道技術ビジョンについて(概要)

- 下水道技術ビジョン検討委員会(委員長:東京大学 花木教授)の審議を経て、平成27年11月「下水道技術ビジョン」を策定。
- 本ビジョンは、人口減少に柔軟に対応した汚水処理システムや、気候変動に伴う降雨の変化に対応した浸水対策をはじめ、下水道の今後の重要な課題を解決するため、11の技術開発分野についてロードマップを作成し、課題、目標、技術開発項目について整理したもの。
- 本ビジョンは「新下水道ビジョン」で示された長期ビジョンや中期目標を達成するため、必要な技術開発分野と技術開発項目を示したもの。
- 技術開発を推進するため、国総研に「下水道技術開発会議(仮称)」を設置

11の技術開発分野

- ①持続可能な下水道システム-1
(再構築)
- ②持続可能な下水道システム-2
(健全化、老朽化対策、スマートオペレーション)
- ③地震・津波対策
- ④雨水管理(浸水対策)
- ⑤雨水管理(雨水利用、不明水対策等)
- ⑥流域圏管理
- ⑦リスク管理
- ⑧再生水利用
- ⑨地域バイオマス活用
- ⑩創エネ・再生可能エネルギー
- ⑪低炭素型下水道システム

ロードマップの構成

- 新下水道ビジョンに示された「現状と課題」、「長期ビジョン」、「中期目標」を達成するため、11の技術開発分野ごとに以下の項目を設定
- 中期目標達成のための課題
 - 技術目標:各課題を解決する際の目標
 - 当面の技術目標(5年後)、中期技術目標(10年後)、将来技術目標(概ね20年後):時間軸を3段階に分け、各段階で実施すべき技術開発が明確になるように設定
 - 必要な技術開発項目:目標を解決するための技術開発項目について基礎研究、応用研究、実証研究に分類して示した。

「下水道技術開発会議(仮称)」の設置

下水道技術開発推進のための体制イメージ図

